

# 令和3年度第5回 神戸市学校給食委員会 議事要旨

- 1 開催日時 令和3年8月4日（水）15時00分～16時30分
- 2 開催場所 神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室
- 3 出席委員 西村委員長、植村委員、小林委員、熊谷委員、山崎委員、田中委員、本條委員、竹森委員、古田委員
- 4 議 事
  - ・神戸市学校給食委員会の意見のまとめについて

## 【冒 頭】

### ○浜西健康教育課長

- ・神戸の子どもたちにとってより良い中学校給食の実現に向けて、これまで闊達に議論をいただいていた。本日はこれまでの議論を踏まえ、神戸市学校給食委員会としての意見のまとめについて、ご意見をいただきたい。

### ●委員長

- ・今年の秋頃までに教育委員会が「全員喫食制への移行に向けた基本方針」を策定する予定となっている。神戸市学校給食委員会としては、今月を目途に意見をまとめたい。本日はこれまで議論した内容を資料として整理しているので、これを原案として議論したい。子どもたちのためにより良い給食、安全安心で楽しい給食を提供するために引き続き議論を深めたい。
- ・一部の委員には「神戸市学校給食委員会委員の皆様へ」というお手紙が届いているが、この場で委員全員に共有化した方が良いと思ったのでコピーを配布した。外部からご意見をいただくのは重要であるが、数が増えてくれば全てに対応するのは不可能になる。また、この学校給食委員会は独立した立場であり、それぞれの委員がニュートラルな立場で意見を発言し、成り立っている。そのため、本日配布したお手紙に対しても中立的な立場である。事実としてこういうお手紙をいただいたということについて共有化し、取扱い等については各委員の判断に任せたい。

## 【議事要旨】

### ◇ 給食センター方式について

#### ○事務局

- ・前回の資料で、給食センターの候補用地が3ヶ所と説明したが、庁内で調整を行い、改めて現地調査を行った結果、うち1ヶ所については、相当規模の造成工事が必要であり、経費や期間の面から極めて課題が大きいことが確認できた。
- ・その他の2ヶ所は引き続き検討対象としたい。また、効率的な施設整備を行うことで、2ヶ所合わせて最大18,000食程度を供給可能ではないかと試算している。

### ◇ 神戸市学校給食委員会の意見のまとめについて

（事務局より資料1について説明）

#### ●委員長

- ・意見のまとめは構成も含めて修正可能である。まずは形式的な面に関して意見を伺いたい。
- ・6ページ目のアンケート調査については、実施方法も明記する方が良い。

## ○事務局

- ・アンケートの実施方法はインターネットによる調査である。追記する。

## ●委員長

- ・形式的な面で意見がないようであれば、最初の章から順番に中身も含めて意見を聞きたい。

## ●委員

- ・現行のランチボックス方式の給食が不人気だということは真摯に受け止めなければならない。また、自校方式は理想的だと思うが、全ての中学校で自校方式を実施するのはかなり困難という調査結果だった。食缶を活用した給食センター方式と民間デリバリー方式を組み合わせた方法が現状としてはやむを得ないと考えている。
- ・給食センター方式については現在、複数ヶ所の候補地があるが、将来的にはもう少し新しい候補地も検討していただきたいと思う。

## ●委員長

- ・給食センター方式は、事務局の調査でいうと、現実的にどれくらいの可能性があるのか。

## ○事務局

- ・給食センター方式は用地の確保が最大のネックになる。全庁的に候補用地を調査したが、前回の会議で示させていただいたのが3か所。ただ、先ほどご説明させていただいた通り、うち1か所については造成にコストと時間が必要になるという課題があった。全員喫食制の温かい給食への期待が非常に大きく、早期の実現を目指していく観点から、この1ヶ所は今回の対象から外れると考えている。ただし、残りの2ヶ所は活用可能と考えている。
- ・今後、中長期的に見た場合、新たな候補用地が見つかる可能性は当然ゼロではないが、少なくとも現時点で議論ができる用地は2ヶ所である。

## ●委員長

- ・2ヶ所で最大18,000食程度が提供可能ということで良いか。

## ○事務局

- ・そのように考えている。

## ●委員

- ・温かい給食や全員喫食制について、生徒・保護者からの要望があり、それに応えるためにできるだけ早く移行したいということが盛り込まれている。また、中学生は体格の差が大きく、量の調整ができるというのは、個々の中学生にとっては非常にメリットがある。量の調整が可能という表記もあるし、資料のまとめ方についての異論はない。

## ●委員

- ・中学校給食の現状、生徒・保護者のニーズ、そして今後の方向性という流れができていていると思う。ランチボックスは温度管理の関係上、冷たいという課題があるが、その中でも非常に栄養面とかも考えられていて、年々本当に良くなってきていると思っている。ただ、やはり温かさというところには課題があった。その点に関しては生徒も保護者も非常に求めているところなので、神戸市として何とかしないといけないということで、昨年実施したモデル実施についても記載がある。こういったことも踏まえて、今後、全員喫食制にするという方向性が理解できるので、非常にわかりやすいと思う。

## ●委員

- ・特に異論はない。ただし、最終的な形として自校調理方式がベストなのかどうかは疑義を感じている。警報で給食が中止になった場合、食品ロスの観点から、食材を廃棄するのではなく、現在は子ども食堂や福祉施設などに食材の譲渡を行っている。

- ・SDGsの観点で考えた場合、自校調理方式よりも集約して調理した方がそういったロスが出ていくのではないかと。

●委員

- ・資料のまとめ方については分かりやすいと思うが、2ページ目の提供方法の記載については、①～④の方式と現行の民間デリバリー方式が縦並びで表記されているので、現行と今後検討していくものを比較するような形で表記した方が分かりやすいのではないかと。

●委員

- ・温かい給食や安全安心、全員喫食、そして早期導入ということを考えての議論が分かりやすくまとめられており、異論はない。

●委員

- ・資料のボリュームについてはどうか。できるだけコンパクトな方が読みやすいと思うが、もう少し詳しい方が良いのか意見を伺いたい。

●委員長

- ・報告書と要約版の2種類を作るのも手である。また、参考資料としてこれまで色々調べていただいたデータ集を根拠資料として添付した方が良い。教育委員会で方向性を決める際は市民向けに紙1枚くらいのもので作った方が良いかもしれない。

●委員

- ・これまで議論してきたポイントがしっかり押さえられており、流れ的にも分かりやすい。コンパクトで見やすいが、もう少し補足資料などを添付した方が良いと思う。

●委員長

- ・3ページ目の「食缶による温かい給食」という記載だと、民間デリバリー方式（食缶）ありきと誤解を与えないか。4つの方式を全てフラットに議論しているので、最初に「食缶による」という記載があると誤解を招く可能性がある。

●委員

- ・提供方法として、ランチボックス方式と食缶方式の2種類がある。自校調理方式、親子調理方式、給食センター方式、民間デリバリー方式のいずれも教室には食缶で持っていく形になる。誤解を与えないよう表現を工夫する必要がある。

●委員

- ・2ページ目のモデル実施について、①の一部食缶方式と②の親子調理方式で何が違うのかと言うと、一部食缶方式はおかずの一部だけ温かい状態で提供しているが、親子調理方式は全て温かい状態で提供している。この結果を踏まえると、3ページ目の今後の方向性の中で、全てのおかずを温かい状態で提供する方が良いという表現を入れた方が良いのではと感じている。

●委員長

- ・きちっと説明しておく方が誤解を招かないと思う。修正について事務局で検討いただきたい。

●委員

- ・令和元年度の神戸市学校給食委員会では牛乳の選択制の議論があった。牛乳を外すとカルシウムの摂取量が大幅に下がってしまう。他の食品で代用できれば良いが、長期的に見るとそれは不可能ではないかと考えている。牛乳選択制については再検討しても良いのではないかと。

○事務局

- ・現状の中学校給食は選択制のため、給食を申し込む際に牛乳の有無も合わせて選択できるような運用を行っている。栄養価についてはご指摘のとおり、牛乳以外の他の食品でカルシウム等の栄養価をまかなうのは非常に困難と考えている。全員喫食制への移行にあたっての検討課題

と考えている。ただ、現状は選択制といっても、大多数の方には牛乳を飲用いただいております、教育委員会としても基本的には牛乳の飲用を推奨していくものだと考えている。

●委員長

- ・全員喫食となった際、学校給食摂取基準で示されている基準を満たすよう配慮していく責任は出てくる。献立の中で工夫は検討できるのか。

○事務局

- ・厚生労働省が1人あたりの1日の摂取基準や栄養価としてどの程度が望ましいのかの基準を示しており、それを踏まえて給食でどの程度の栄養価を摂取するのが望ましいのかを文部科学省が出した基準が学校給食摂取基準である。
- ・多くの栄養素は、1日朝・昼・晩と3食あるので、3分の1程度が基準となっているが、カルシウムについては家庭での摂取がなかなか難しいという現状を踏まえて、1日の栄養素の2分の1の基準となっている。そのため、牛乳なしで栄養価を確保するのは難しいと考えているが、牛乳は出来るだけ飲んでいただきたいということと、家庭も含めて望ましい食事をとっていただくということを教育委員会として発信していく必要があると考えている。

●委員長

- ・学校側が全ての責任で給食を出せば良いというのではなく、家庭との連携も必要なのかもしれないが、できるだけ栄養価の摂取基準に近づけるような方策は考えていただきたい。

○事務局

- ・給食の本質であると思うので、しっかりと考えていきたい。

●委員

- ・衛生管理基準の HACCP などの専門用語については、脚注を記載した方が良いのではないかと。

●委員長

- ・確かに分かりにくい。HACCP だけではなく、全体を通して注意書きを検討いただきたい。

●委員

- ・アンケートやサウンディング調査の結果を踏まえて、全員喫食制を進めるべきであるといったまとめがあってもいいのではと思う。

●委員長

- ・次に8ページ目以降の実施方式の検討についてはどうか。

●委員

- ・確認であるが、民間デリバリー方式で提供される給食は一部のおかずが温かい一部食缶方式での提供となるのか。

○事務局

- ・全てのおかずを温かい状態で提供する。給食センター方式と同様である。
- ・昨年度のモデル実施では、やはり1品だけ温かいよりも全てのおかずが温かい方が生徒の満足度が高いことは明らかだった。全てのおかずを温かくすることを前提として考えている。
- ・民間デリバリー方式と給食センター方式については、給食を調理する場所が民間が整備した施設なのか、神戸市が整備する施設なのかという違いはあるが、いずれもセントラルキッチン型で工場から学校に配送するというシステムである。

●委員

- ・献立は同じものになるのか。

○事務局

- ・全く同じものを想定している。また、同じ質を担保していくべきだと考えている。

●委員

- ・最終的に全て給食センター方式に移行するということまで記載すべきなのか、それともそういったことは様子を見ながらになるのか。

○事務局

- ・給食センター方式も自校調理方式と同様、初期投資が必要になる。中長期的な観点からは人口減少という課題もある。また、サウンディング調査においても、全員喫食制への移行を事業機会として好意的に捉えている民間事業者もいた。そういった状況の中で、全てを給食センター方式に移行することが良いのかどうか、現時点で議論するのはなかなか難しいと考えている。

●委員長

- ・自校調理方式や親子調理方式のメリットも理解いただいていると思うが、ただ、実際に実行しようと思うと実現までに相当の時間が必要になるという課題もある。また、中学校の敷地内に給食室を整備するためのスペースを確保することについては、子どもたちに危険が及ぶような動線になってしまうと良くないということもあり、現実的にはなかなか困難ということだった。
- ・全員喫食の37,000食を安定的に提供する一方で、早期に実現したいということが教育委員会としての考え方である。また、全員喫食制については重要度も高く、緊急度も高い。そういった観点でも、民間デリバリー方式と給食センター方式の組み合わせにより、食数の大きい部分を担当することで可及的速やかに実現していくというところに終焉していくのではないのか。

●委員

- ・我々は事務局から説明を受けて理解しているが、知らない方からすると実施方式が異なることで違う給食が提供されるのではないのかという誤解を受けるかもしれない。保護者の方の安心という観点から、表現を工夫した方が良いのではないかと感じた。

●委員長

- ・確かに適切に説明していく必要がある。

●委員

- ・親子調理方式もある。小学校と同じ献立になるのか。

●委員長

- ・栄養量の問題もあるので量は変えて、1品追加するような話だったように思う。

○事務局

- ・献立については、栄養価の計算はしっかり行ったうえで、やはり中学生向けのメニューを考えていきたい。そのうえで、民間デリバリー方式と給食センター方式は全く同じ献立を提供したい。ただし、親子調理方式については、給食を調理する場所が小学校の給食室であるので、どうしても小学校給食がベースとなり、プラス1品などの工夫を考えたい。それを前提として、同じ内容かつ同質の給食を提供するといった記載について表現を検討したい。

●委員長

- ・逆にいえば、小学校と中学校で同じ給食を出しながら、中学生向けに量を増やすとか、1品増やすなどの対応が可能な学校であれば、親子調理方式が可能ということか。資料では4校ぐらいという数字があがっていたが。

○事務局

- ・4校で実施することを決めているわけではなく、親子調理方式については、小学校給食室の調理能力という課題があるため、対象となり得る調理室を十分に調査する必要があると思う。

●委員長

- ・親子調理方式の調査結果に4校と書いてあったが、ただし書きに記載があるとおり、対応する

中学校との組み合わせについては、というところがポイントになるということか。

●委員

- ・献立については、全員喫食制に移行する際に小学校と中学校の給食をどう考えるのかについてしっかりと議論をする必要がある。保護者の立場に立つと、小中学校にきょうだいがいる場合、同じ献立の方が助かるという意見もあると思う。そのあたりはよく保護者の意見を聞きながら考える必要があるのではないか。

●委員

- ・それぞれの実施方式の調査結果を表にまとめた方が最適な実施方式に至った理由を視覚的に理解しやすいのではないか。さらに詳細な内容については参考資料を添付すれば良いと思う。

●委員

- ・サウンディング調査の実施結果について、「関心はあるが条件次第」という記載は民間事業者が後ろ向きな印象を受けてしまう。生徒も保護者も質の高い給食の提供を望んでおり、そういった観点からも民間による競争は重要である。民間デリバリー方式だけでなく、給食センター方式についても、民間資金を活用したPFI方式を検討するなど、民間活力の活用を考えるような記載を入れた方が民間事業者も活気づくのではないか。

○事務局

- ・サウンディング調査の中でも、給食センターの整備に関しても関心を示している民間事業者もいた。民間活力の活用の観点についても記載を工夫したい。

●委員長

- ・本日の意見を踏まえて事務局で修正をお願いしたい。事務局から説明や意見はあるか。

○事務局

- ・意見のまとめについて、次回までに修正を行い、事前に各委員に資料を送付させていただく。できる限り意見を事前にも集約させていただきながら、今回のこの場で改めて提出させていただきたい。そのうえで再度確認いただいたものを最終版としてまとめたい。

●委員長

- ・次回、最終案を確認する作業になる。次で一旦最後とさせていただきたい。次回までの間に気づいたこと意見がある場合は事務局まで連絡いただきたい。
- ・委員全員で共有していることは、安全安心でおいしい給食を子どもたちに一日でも早く届けてあげたいという思いである。色んな意見をいただく中でベストを出したいと思う。ベストにならずセカンドベストになるかもしれないが、次回、この場で議論を行い、より良い給食に向けての報告まとめを作ることができればと思う。引き続きよろしくをお願いしたい。